

道風

道風記念館だより

第58号

発行日
令和三年三月三十一日

編集・発行

春日井市道風記念館

春日井市松河戸町五―九―三

電話(〇五六八)八二―六一〇

収蔵品紹介 坪内逍遙書画幅

一幅・大正〓昭和時代

江戸時代に流行した小唄「むかう通るは清十郎ぢやないか。笠がよく似たすげがさか。」を上部に散らし書きし、下部には女性の姿を描いています。ゆつたりとした構成で、余白の美しい作品です。この小唄は実話がもとになっています。寛文二年(一六六二)ころのことです。姫路の城下町の大店、但馬屋の娘お夏と、その店の手代清十郎が恋に落ちました。二人は駆け落ちをしますが、す

ぐに捕えられ、引き裂かれます。そして、清十郎は店の金を盗んだという濡れ衣を着せられ、打ち首にされてしまいます。それを知ったお夏は狂乱して行方不明になってしまったという事件です。

井原西鶴の浮世草子『好色五人女』(一六八六刊)、近松門左衛門の浄瑠璃『五十年忌歌念仏』(二七〇九年初演)などに取り上げられ、有名になりました。

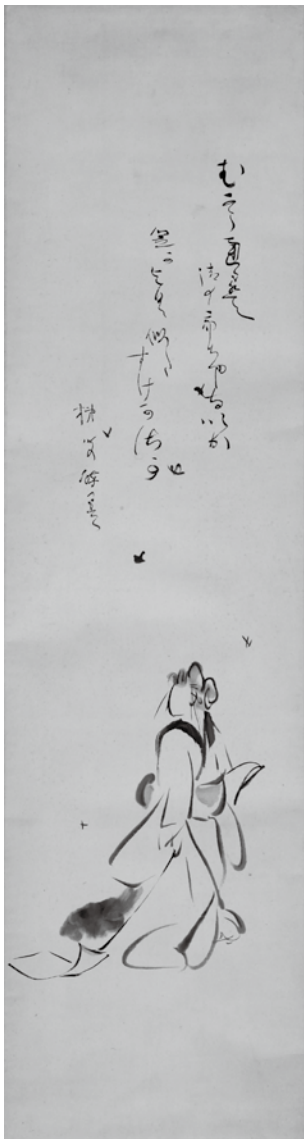
筆者の坪内逍遙(二八五九〓一九三五)は明治から昭和前期にかけての小説家、評論家、劇作家で、本名は勇蔵、のち雄蔵。主な著書に『小説神髓』、『当世書生気質』などがあり、シェイクスピアの

翻訳者としても著名です。現在の岐阜県美濃加茂市に生まれ、東京帝国大学卒業後、東京専門学校(現在の早稲田大学)で教鞭を執りました。早稲田大学内には坪内博士記念演劇博物館があります。作品の落款「柿叟」は逍遙晩年の別号です。

逍遙は、この事件を現代的にアレンジした舞踊劇「お夏狂乱」を制作しています。作曲は二世常磐津文字兵衛で、大正三年(一九一四)に六世尾上梅幸により初演されました。

清十郎の死を知って狂乱したお夏が秋の田舎道をさまよいます。いたずらな子どもや酔った馬方、巡礼の老夫婦らが絡んで、哀れなお夏が诗情豊かに描かれます。逍遙の演劇理論の実践を試みた作品で、代表作の一つとされています。

本作品の画を描いたのも逍遙です。見つかるはずもない清十郎を探し求めているお夏の姿が描かれています。気が狂ったお夏には、どの人も清十郎に見えてしまいます。画にも書にも、そんな深い悲しみが表現されています。この作品は、お夏の着物に見立てたのでしよう、赤い絞りの布を使って掛け軸に仕立てられています。



八八三×三三六mm

展覧会のみどころ

特別展「王朝文学と古筆切」

令和3年5月16日まで延長・開催



令和二年度の特別展「王朝文学と古筆切」は、新型コロナウイルス感染症防止対策の為に一時休館したことで、開催が遅れてしまいました。今なお続くコロナ禍の中で、観覧集中を避ける対策、またせっかくの特別展を皆様にご覧いただきたいという思いから、会期を大幅に延長することにしました。

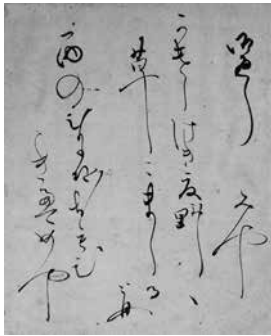
ここでは、特別展「王朝文学と古筆切」の楽しみ方をご紹介します。

この展覧会で展示しているのは、当館顧問の田中登先生（関西大学名誉教授）が、長年にわたって収集・研究されてきた古筆（古い時代に書写された日本の美しい筆跡）です。平安時代から室町時代に書写された、古今和歌集をはじめとする歌集や物語の断簡が、ずらりと六十九点。質としても数としても見ごたえがあると思います。

もともと冊子や巻物であった歌集や物語が、なぜこうも小さく切断されて伝わっているのか。田中先生は、ご著書『失われた書を求めて』のなかで、次のように明言されます。

なぜ本を切るのか。答えはいたって簡単。それが美しいからである。

この問題を考えるには、まず何よりも日本の書物というものの性格に思いを致す必要がある。江戸時代以前、わが国では本はもっぱら人が手で書き写していた。（略）ただ、ここで注意をしたいのは、同じ本でも、後世のものとは違って、平安・鎌倉時代の人々は、元の本をただ正確に写せばよいというのではなく、料紙をも含めて、それをいかに美しくかつ優雅に写すかに、多大なエネルギーを費やしていた、ということである。つまり、一巻の書物もしくは一冊の本に、王朝みやびの世界がもの見事に体现されているのだ。であればこそ、たった一枚の断簡となっても、そこには王朝文化の粋がいわば残り香となつて伝わってくるわけで、ここに出版文化と異なる写本文化の本質があるといつてよからう。



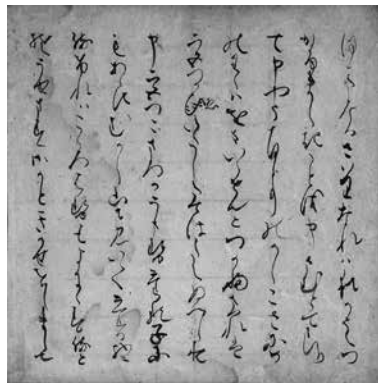
寂然筆大富切（具平親王御集）

展覧会の見どころとして第一に挙げたいのは、やはり「古筆の美」です。あまりの美しさに皆に求められ、切断され、小さな

断簡になって伝わった愛らしい古筆。たとえば寂然筆大富切。小さく優雅な仮名文字ですが、その線質は恐ろしく強く、キレがあります。細いその切っ先までじっくりと鑑賞ください。

次にこの展覧会のテーマ、「書と文学が一体となった、王朝文化の雅」に目を向けます。古筆切に書写されている和歌や物語を文学として味わいながら、平安・鎌倉期の雰囲気も堪能してください。お茶にご興味のある方には、茶席での鑑賞対象のひとつ、古筆切の表装も見どころです。中には軸全面に草花などが描かれた珍しいものもあります。

そして忘れてはいけないのは、これらの古筆は、田中先生のご研究の軌跡であるということです。



伝後光厳天皇筆小六半切（竹取物語）

先生がこれらの古筆切を収集した際のエピソードを解説に加え、さまざまな角度から楽しんでいただけるように展示をしております。ぜひ足を運んでください。

（鈴木宏美）

展覧会のご案内

館蔵品展「書の魅力」

令和3年5月19日(水)～7月11日(日)

書を鑑賞するために、必ずしも特別な知識を持つていなければならないわけではありません。書線や墨色、余白、字形に美しさを感じ、それらが組み合わさって生まれる調和や趣を味わえば、書芸術にふれられます。

図1、町春草(一九二二～九五)の作品の書線には、繊細でありながら芯のしつかりとした強さがあります。よどみなく流れるように筆を運んで

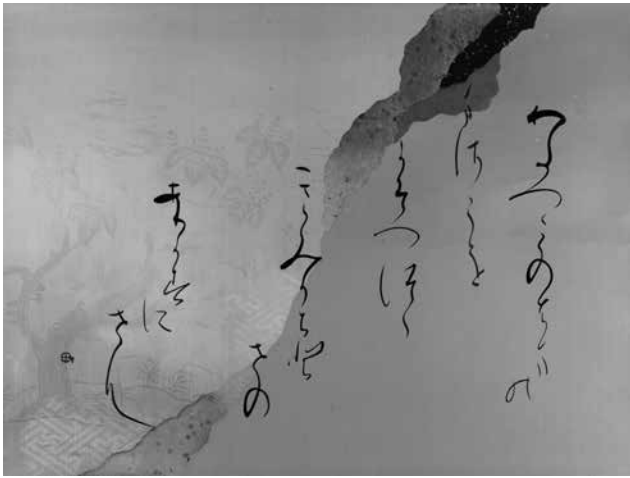


図1 町春草

いますが、その動きは一樣ではありません。たとえば、一行目「わたつみのはま」を丁寧にとつてみると、筆を大きく動かすところもあれば、きわめて小さく動かすところもあり、さまざまに変化していることを感じられます。



「町」の印には、まるみをおびた愛らしさがあり、かなの柔和な雰囲気とよく調和しています。

カラーで紹介できないのが残念ですが、料紙の色彩美もみどころの一つです。この作品の料紙は、異なる紙を破って継いだ「破り継ぎ」という技法を用いたもので、文様を刷り込んだ紙、金銀の切箔を散らした紙など、計六種の紙を継いでいます。この技法は主に平安時代のもので、雅びやかな王朝文化の雰囲気や彷彿とさせます。

図2、青木香流(一九一七～八五)の作品では、紙に華美な装飾はありません。さらに、使用されている文字は、わずかに十一種です。「い」「こ」の第一画をはねずに書き、「シ」の第三画を右上方にはらわず短く表現している点は、飾り気のないさっぱりとした雰囲気をつくり出す要素の一つとなっています。字形をシンプルに表現しているからこそ、余白が美しく際立ち、濃墨の黒が冴え、印の朱色が映え、それらが融け合って美しい紙面をつくり出しているのです。

また、書かれた線を丁寧にとれば、一面一面を歯切れよく書いたリズムカルな動きを体験できます。すし、字体のよく似た「シ」「ミ」と「ハ」「イ」

の書表現は、けっして画一的ではなく、点画の方向、長さ、太さに工夫を凝らしていることがわかります。ちなみに、シャシャブもグイミもグミ科の植物で、高知地方のわらべうたの一部を書いています。

一つの書作品に対してその魅力は一つではありませんが、館蔵品展「書の魅力」では、初心者にも鑑賞しやすいよう、多彩な魅力をもった書作品をあえて分類して展示します。潤渇肥瘦の変化に富んだあじわいのある書線、黒に限られない墨色の微妙な表現、行間や字間や文字のなかに表現された余白の美しさなど、書の魅力をわかりやすくご紹介します。ぜひ一度ご来館のうえ鑑賞ください。(大矢翔太)

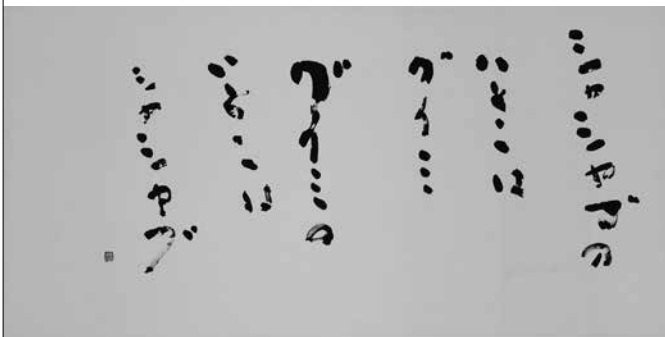


図2 青木香流

令和3年度 スケジュール（前期）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
特別展「王朝文学と古筆切」 ～5月16日 ・国文学と古筆の研究者、田中登氏が収集した古筆を紹介。		館藏品展「書の魅力」 5月19日～7月11日 ・書のような魅力を紹介し、鑑賞方法を提案する展覧会。		企画展「おののとうふう～和様の書のひみつ～」 7月16日～9月5日 ・子どもにもわかりやすく小野道風を紹介。 ・ワークショップ「はじめてのふで」「秘密の特訓」を実施。		開館40周年記念企画展「書のまち春日井」 9月1日～9月12日 【文化フォーラム春日井・ギャラリー】		
展覧会 ■■■■■ 講座 ■■■■■	「書にふれる、はじめての講座」 4月～6月 講師 小川大樸氏		開館40周年記念特別展 「書之美、書の価値～つたえるということ～」 9月11日～10月3日 ・日本の書之美を味わえる特別展。 ・記念式典・講演会を開催			特別展記念講座 9月		
常設展示 小野道風をはじめとする平安時代の書について								

※内容・会期等を変更することがあります。

開館40周年記念「私の好きな言葉」展

開館40周年の記念の年に道風記念館へ来館された方・ハガキ書作品を出品された方による参加型の展覧会。座右の銘など、「好きな言葉」を毛筆で書いたハガキ書作品を募集します。道風記念館2階ホールで展示し、展示風景をインターネットで公開します。

- ◆ 募集期間 令和3年4月1日(木)～令和4年3月31日(木)
- ◆ 展示期間 新着500点展示
令和3年4月1日(木)～10月31日(日)
- 全作品展示
令和4年3月1日(火)～5月8日(日)

※出品規程があります。詳しくはチラシまたは道風記念館ホームページをご覧ください。

ハガキ書作品制作イベント

出品するハガキ書作品を揮毫します
ハガキに上手く書くコツを習おう！

【日 時】 令和3年9月4日(土)13:00～16:00

【場 所】 文化フォーラム春日井・アトリウム

【参加費】 無料

【持ち物】 書道用具一式（貸し出しもします）

※事前申込み不要